JAみなみ筑後つやおとめ特別栽培米研究会
令和８年産ふくおかエコ農産物認証つやおとめ栽培こよみ

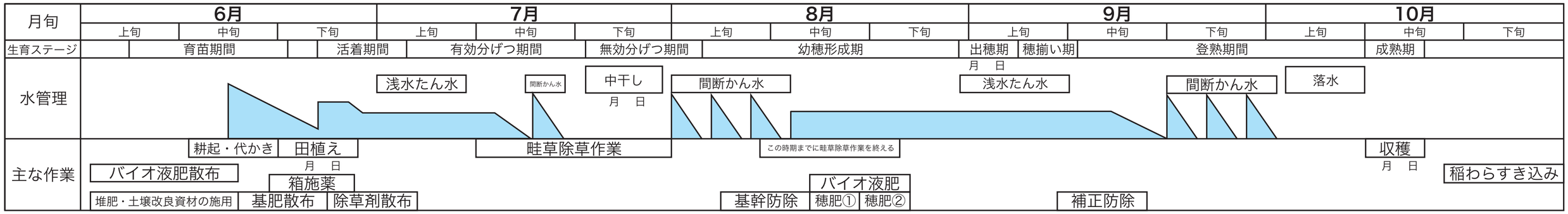
化学合成農薬の成分回数と化学肥料の使用量を、ともに県基準の半分以下で生産する栽培計画を認証する制度です。
【農薬成分数10成分以下・化学窒素量4.25以下】

令和7年12月
南筑後農業協同組合
南筑後普及指導センター

◇ 品 種 特 性

出穂期	成熟期	稈長	玄米千粒重	耐倒伏性	いもち病耐病性
8月30日	10月13日	81cm	20.9g	強	中

◇品質向上対策　**1. 田回りを徹底し田んぼの中をよく観察しましょう。　2. 土づくりを行い地力を増強しよう。　3. 田植え適期　6月25日以降　4. 落水時期　収穫5～7日前**



収量・品質向上のポイントは…「土づくり！」
（※まずは、稲わら・麦わらのすき込みから）

○ケイ酸は、稲体を強化し、倒状や病虫害の発生を抑制します。
○鉄分は、根を守り、根腐れを防ぎます。
○腐植は、土づくりの基本です。地力を向上させ、肥料の効果を安定させます。

◇土壌改良資材：散布日　　月　　日～　　月　　日

土壌改良資材	10a当りの使用量	主要成分【保証成分】
ミネラルG	200kg	苦土3～4%・ケイ酸18～20% 鉄分13～18%・アルカリ分40～43%
土力の素	45kg	りん酸5%・カリ6%・苦土7% ケイ酸20%・アルカリ分15%
オイスターミネラル	60kg	ケイ酸17%・アルカリ分45%

◇育苗培土：散布日　　月　　日～　　月　　日
下記より1つ選択し使用する。

使用用途	資材	使用量	10a当り化学窒素量
稚苗用	筑後化成培土	1箱3kg程度	0.02kg（60kg使用）
稚苗用	みのりエース	1箱3kg程度	0.02kg（60kg使用）

◇施肥基準【基肥　　月　　日～・穂肥①　　月　　日～・穂肥②　　月　　日～】
下記より1つ選択し使用する。

体系	使用用途	資材	成分%	使用量/10a（化学窒素量）
分施	基肥	スーパーユーキくん2号	12-5-5	30kgまで（1.8kg）
	穂肥①	スーパーユーキくん3号	10-3-8	20kgまで（1.0kg）
一発	基肥一発	有機エムコート355	13-5-5	45kgまで（2.93kg）
分施	基肥＋穂肥①（バイオ液肥）	みのるん	0.26-0.07-0.05	4t＋2t（0kg）

※バイオ液肥を使用した場合は、「土力の素」等で土壌改良に積極的に取り組む。

分施	穂肥②（バイオ液肥）	みのるん	0.26-0.07-0.05	0.5t（0kg）

※地力及び生育状況によって、使用量の範囲内で加減してください。
※基肥一発肥料については、気候によって効果がばらつきます。
※地力の高いほ場では、基肥を5～10kg減肥し、穂肥2回施用を励行してください。

◇箱施薬：散布日　　月　　日～　　月　　日

資材名	成分数	使用量	使用時期	備考
防人（さきもり）箱粒剤	【3成分】	1箱50g	は種時（覆土前）～移植当日	いもち病・ウンカ類・コブノメイガ等

◇除草剤：散布日　　月　　日～　　月　　日　　**下記より1つ選択し使用する。**

資材名	成分数	10a当りの使用量	使用時期	備考
プライオリティ1キロ粒剤	【2成分】	1kg（1袋）	移植時～ノビエ3.5葉期	田植同時散布の場合は、田植終了後に必ず5cmの水位まで溜める。
プライオリティフロアブル	【2成分】	500mℓ（1本）	移植直後～ノビエ3.5葉期	水口施用可能。使用前に容器をよく振って使用する。
プライオリティジャンボ	【2成分】	250g（小包装10個）	移植直後～ノビエ3.5葉期	やや深めの湛水（5cm）にして水の出入りを止め散布する。

※処理時期が遅いと効果が低くなりますので、使用時期以内で早めの散布を心がけてください。

◇ジャンボタニシ対策：散布日　　月　　日～　　月　　日

資材名	成分数	10a当りの使用量	使用時期	備考
スクミノン	【1成分】	1～4kg	収穫60日前まで	ジャンボタニシ被害多発田の場合に散布する。

◇基幹防除：散布日　　月　　日～　　月　　日　　**下記より選択し使用する。**

資材名	成分数	10a当りの使用量	使用時期	備考
トレボン粉剤DL	【1成分】	3～4kg	収穫7日前まで	ウンカ類・カメムシ類・コブノメイガ
トレボン乳剤	【1成分】	1000～2000倍・100ℓ	収穫14日前まで	ウンカ類・コブノメイガ1000倍 カメムシ類2000倍
トレボンスカイMC	【1成分】	16倍・0.8ℓ	収穫14日前まで	ヒメトビウンカ・カメムシ類【無人航空機による散布】
なげこみトレボン	【1成分】	水溶性容器10個 （500mℓ）	5葉期以降 収穫21日前まで	ウンカ類**【湛水散布】**
スタークル粉剤DL	【1成分】	3kg	収穫7日前まで	ウンカ類・カメムシ類
スタークル顆粒水溶剤	【1成分】	2000～3000倍・100ℓ	収穫7日前まで	カメムシ類2000倍、ウンカ類3000倍
スタークル液剤10	【1成分】	8倍・0.8ℓ	収穫7日前まで	ウンカ類・カメムシ類【無人航空機による散布】
スタークル豆つぶ	【1成分】	250～500g	収穫7日前まで	ウンカ類250～500g・カメムシ類250g**【湛水散布】**

※本田防除は、害虫の発生状況及びほ場の立地状況によって使用する薬剤を決定してください。
※なげこみトレボンは8月末まで、9月以降はスタークル豆つぶを、湛水（水を全体に3㎝溜めて）散布します。その後、水が無くなるまで水は足さないようにします。

※減農薬・減化学肥料栽培であり成分数に限りがある為、こよみに記載している肥料・農薬以外は使用できません。
※こよみ以外の肥料・農薬を使用した場合は、必ず農協に報告してください。「ふくおかエコ農産物」としての出荷はできなくなります。

栽培速報等を発信していますのでLINE登録を宜しくお願い致します。
水稲・麦・大豆速報LINE

◆お問合せ先　　南筑後農業協同組合 営農部 農畜産課（TEL 0944-63-8814）　南筑後普及指導センター（TEL 0944-62-4191）

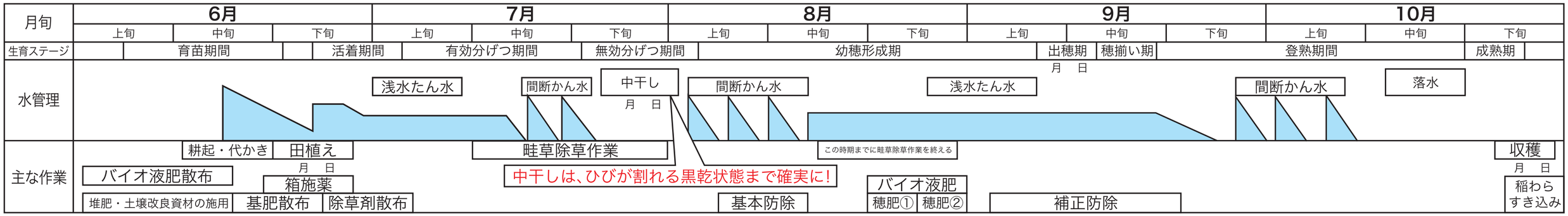
瀬高地区もち米部会 令和８年産ヒヨクモチ栽培こよみ

令和7年12月
南筑後農業協同組合
南筑後普及指導センター

◇ 品 種 特 性

出穂期	成熟期	稈長	玄米千粒重	耐倒伏性	いもち病耐病性
9月6日	10月26日	69cm	21.5g	極強	やや弱

◇品質向上対策　**1. 田回りを徹底し田んぼの中をよく観察しましょう。　2. 土づくりを行い地力を増強しよう。　3. 田植え適期　6月25日以降　4. 落水時期　収穫5～7日前**



収量・品質向上のポイントは…「土づくり!」
（※まずは、稲わら・麦わらのすき込みから）

○ケイ酸は、稲体を強化し、倒状や病虫害の発生を抑制します。
○鉄分は、根を守り、根腐れを防ぎます。
○腐植は、土づくりの基本です。地力を向上させ、肥料の効果を安定させます。

◇土壌改良資材：散布日　　月　　日～　　月　　日

土壌改良資材	10a当りの使用量	主要成分【保証成分】
ミネラルG	200kg	苦土3～4%・ケイ酸18～20% 鉄分13～18%・アルカリ分40～43%
土力の素	45kg	りん酸5%・カリ6%・苦土7% ケイ酸20%・アルカリ分15%
オイスターミネラル	60kg	ケイ酸17%・アルカリ分45%

◇育苗培土：散布日　　月　　日～　　月　　日

使用用途	資材	使用量
稚苗用	筑後化成培土	1箱3.5kg程度
稚苗用	みのりエース	1箱3.5kg程度

◇施肥基準【基肥　　月　　日～・穂肥①　　月　　日～・穂肥②　　月　　日～】

体系	使用用途	資材	成分%	使用量/10a
分施	基肥	ちくごのめぐみ444	14-14-14	35kg
	穂肥1回目	NK化成2号	16-0-16	20kg
	穂肥2回目	NK化成2号	16-0-16	15kg
一発	基肥一発	晩生一発エムコート44	22-12-10	30～40kg
分施	バイオ液肥	みのるん	0.26-0.07-0.05	4t＋2t

※バイオ液肥を使用した場合は、「土力の素」等で土壌改良に積極的に取り組む。
※地力及び生育状況によって、使用量の範囲内で加減してください。
※基肥一発肥料については、気候によって効果がばらつきます。
※地力の高いほ場では、基肥を5～10kg減肥し、穂肥2回施用を励行してください。

◇箱施薬：散布日　　月　　日～　　月　　日

資材名	使用量	使用時期	備考
防人（さきもり）箱粒剤	1箱50g	は種時（覆土前）～移植当日	いもち病・ウンカ類・コブノメイガ等

◇除草剤：散布日　　月　　日～　　月　　日

資材名	10a当りの使用量	使用時期	備考
プライオリティ1キロ粒剤	1kg（1袋）	移植時～ノビエ3.5葉期	田植同時散布の場合は、田植終了後に必ず5cmの水位まで溜める。
プライオリティフロアブル	500mℓ（1本）	移植直後～ノビエ3.5葉期	水口施用可能。使用前に容器をよく振って使用する。
プライオリティジャンボ	250g（小包装10個）	移植直後～ノビエ3.5葉期	やや深めの湛水（5cm）にして水の出入りを止め散布する。

※処理時期が遅いと効果が低くなりますので、使用時期以内で早めの散布を心がけてください。

◇ジャンボタニシ対策：散布日　　月　　日～　　月　　日

資材名	10a当りの使用量	使用時期	備考
スクミノン	1～4kg	収穫60日前まで	ジャンボタニシ被害多発田の場合に散布する。

◇本田の病害虫防除

体系＼時期	基本防除Ⅰ（対象病害虫） 8月下旬	基本防除Ⅱ（対象病害虫） 9月中旬	補正防除 9月下旬以降
粉剤	ダブルカットバリダトレボン粉剤3DL　3～4kg/10a （いもち病、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類、コブノメイガ）【穂揃い期まで】	スタークル粉剤DL　3kg/10a （カメムシ類、ウンカ類）【収穫7日前まで】	基本防除Ⅱと同剤
液剤	ダブルカットバリダフロアブル（1000倍・100ℓ/10a） （いもち病、紋枯病）【穂揃期まで】 トレボン乳剤（1000～2000倍・100ℓ/10a） 1000倍（コブノメイガ）、1000倍（ウンカ類）、2000倍（カメムシ類）	スタークル顆粒水溶剤　100ℓ/10a 2000倍（カメムシ類） 3000倍（ウンカ類） 【収穫7日前まで】	
豆つぶ剤	ワイドパンチ豆つぶ　250g/10a （いもち病、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類）【収穫35日前まで】	スタークル豆つぶ 250～500g/10a（ウンカ類） 250g/10a（カメムシ類）【収穫7日前まで】	

栽培速報等を発信していますので
LINE登録を宜しくお願い致します。

水稲・麦・大豆速報LINE

※スタークル剤の使用については、出穂時期～開花時期での散布はミツバチに悪影響をおよぼしますので使用しないでください。
※なお、近隣にハウスや野菜等の作付けがある場合は、数日前に防除する旨を伝え、薬剤の飛散が無いように防除してください。

◆お問合せ先　　南筑後農業協同組合 営農部 農畜産課（TEL 0944-63-8814）　　南筑後普及指導センター（TEL 0944-62-4191）

みなみ筑後の大豆づくりこよみ

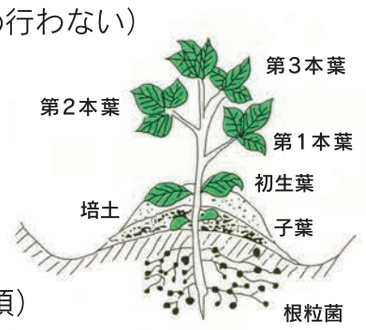
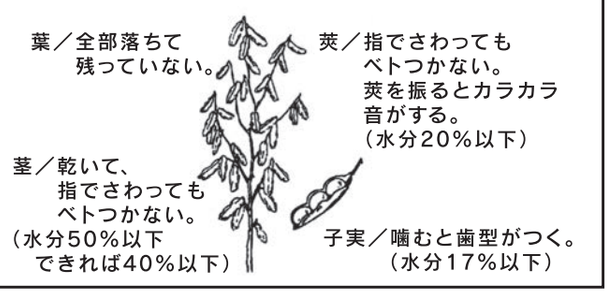
作成：令和７年１２月
南筑後農業協同組合
南筑後普及指導センター

大豆づくりはまず土づくりと適期播種から

令和8年産

喜ばれる「みなみ筑後」の大豆づくり重点事項

(1) 収量・品質の向上
①収量向上対策の徹底（土づくり、連作の回避、排水性の改善）
②基本技術の励行（適期播種、排水対策、中耕・培土、病害虫・雑草防除）
③種子更新率100%
(2) 安全・安心な大豆生産
①栽培履歴・GAP（農業生産工程管理）の全出荷者記帳・提出
②農薬適正使用と飛散防止対策の徹底
③発生予察に基づく適期防除による農薬使用回数の低減

月	旬	主な作業	作業内容
6	上	品種	「ちくしB5号」とする。品種特性表 参照 施肥基準 参照
	中	土づくり	PHの矯正 6.0程度に矯正 e-green 4-4-20 40kg/10aを投入 地力増強のため麦ワラや堆肥などの有機物や、ミネラルG 200kg/10a、土力の素45kg/10aを投入し、地力を維持する。
	下	（雑草防除）	除草剤基準 参照
7	上	種子消毒	キヒゲンR-2フロアブルを種子1kg当り20㎖塗沫または キヒゲンを種子1kg当り10g粉衣する。（鳥の食害防止）または、 クルーザーMAXXを種子1kg当たり8㎖塗沫する。 （鳥の食害防止･ネキリムシ対策･湿害軽減）
	中	耕起・播種	ロータリー耕で充分砕土を行い、同時に播種する。 ※梅雨明け後は、ほ場が乾燥し過ぎる前に、速やかに5cm以上の深さで播く。 ※鳥害回避の為一斉播種を行う。部分浅耕播種や組作業で適期播種を行う。
	中	雑草防除	除草剤基準 参照
	中	補植	欠株が多い場合は、密植部分から根に株元の土を多くつけた状態で補植する。 （追播は、成熟期が異なるため行わない）
	下	中耕・培土	播種後15日頃（本葉3枚頃） 
8	上	中耕・培土	播種後25～30日頃（本葉5枚頃）
	中	害虫防除（ハスモンヨトウ）	病害虫防除基準 参照 ※白変葉（ハスモンヨトウ孵化直後）の手取り除去を行う。
	下		
9	上	病害虫防除（ハスモンヨトウ）（カメムシ類）（紫斑病）	病害虫防除基準 参照 ※8月中下旬の防除と9月上中旬の防除は必ず行う。また、9月上中旬の防除時は、3種混合で行う。
	中	畦間かん水	子実肥大期に、ほ場が乾燥しすぎるようであれば、かん水を実施する。 干ばつ時の畦間かん水
	下		
10	上	青立株抜取り	刈り取り前に、青立ち株や雑草を抜取る。
	中		
	下		
11	上	成熟期	成熟期は大部分が落葉し、莢を振ると音をたてる程度に乾燥した時期
	中	刈取	刈取適期は、成熟期～成熟期後10日頃まで （汎用コンバインでの刈取は成熟期後7～14日頃）
	中	脱粒	脱粒機は、損傷粒が発生しないように回転数に気をつける。
	下	乾燥 調整	

品種特性表

品種名	開花期	成熟期	主茎長	耐倒伏性	10a当り子実重
ちくしB5号	8月21日	11月1日	67cm	やや強	366kg

※7月10日播種

播種時期・栽植密度規準

播種適期	7月10日～20日（適期播）	7月下旬（遅播）
播種量(kg/10a)	4～5	5～7
条間、畝幅(cm)	70、140	
株間（cm）	25～20	20～13

※7月10日前に播種する場合は、播種量3kg/10aで株間30㎝とします。

施肥基準

10a当り

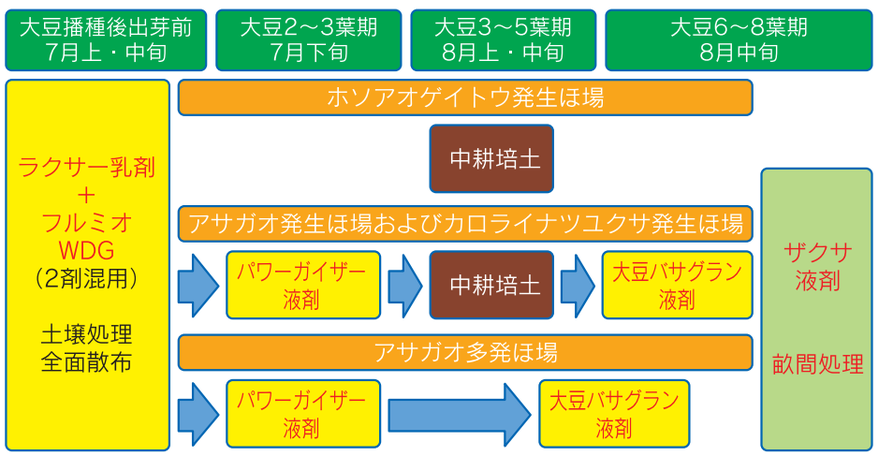
播種時期	7月上旬～中旬（適期播）	7月下旬以降（遅播）
土壌改良材	ミネラルG 200kg 土力の素 45kg	
土壌改良材入り肥料	e-green 4-4-20 40kg	

除草剤基準

使用時期	除草剤名	10a当り使用量	10a当り希釈水量	使用上の留意点
播種前（雑草が多い場合）	ラウンドアップマックスロード	200～500㎖	25～100ℓ	飛散防止対策を徹底する
	ザクサ液剤	300～500㎖	100ℓ	
播種後出芽前（雑草発生前）	ラクサー粒剤	4～8kg	―	砕土を丁寧に行い覆土を十分に行う
	ラクサー乳剤	400～800㎖	100ℓ	1年生雑草
	フルミオWDG	5～10g	100ℓ	ホオズキ類・ホソアオゲイトウ ラクサー乳剤と混用
雑草生育期(8月) イネ科雑草 3～10葉期	ポルトフロアブル	200～300㎖	100ℓ	1年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）収穫30日前まで
大豆3葉期まで（雑草2葉期まで）	パワーカイザー液剤	200～300㎖	100ℓ	アサガオ類・カロライナツユクサ発生ほ場
大豆2葉期～開花前（雑草6葉期まで）	大豆バサグラン液剤	100～150㎖	100ℓ	
畝間処理	ザクサ液剤	300～500㎖	100ℓ	収穫28日前まで

○難防除雑草の防除法

アサガオ類やホオズキ類の防除は、初期除草剤のみでは不十分なので中期除草剤、中耕培土を組み合わせて、実施する。



※アサガオ多発ほ場ではアサガオの出芽本数を減らす方法として、播種前にトレファノサイド乳剤（300㎖/10a）の土壌混和（**散布直後から2～3時間以内**）が有効です。

病害虫防除基準

防除時期	対象病害虫	薬剤名	10a当り使用量	使用回数	備考
発生時	マメハンミョウ	スミチオン乳剤	1,000倍 水100ℓ	4回以内	1回目の防除でスミチオン乳剤とノーモルト乳剤を混用する。
8月中～下旬	ハスモンヨトウ	ノーモルト乳剤	2,000倍 水100～150ℓ	2回以内	
			8～16倍 0.8ℓ		無人航空機散布
9月上中旬		アクセルフロアブル	2,000倍 水100～150ℓ	3回以内	
		ブロフレアSC	4,000倍 水100～150ℓ	3回以内	
			32倍 0.8ℓ		無人航空機散布
	カメムシ類	スタークル液剤10	1,000倍 水150ℓ	2回以内	
			8倍 0.8ℓ		無人航空機散布
	紫斑病	トップジンM水和剤	700～1,500倍 水150ℓ	4回以内	
		アミスター20フロアブル	16倍 0.8ℓ	2回以内	無人航空機散布

※高温年には、成熟期後半まで加害が続くので、2回目防除を必ず実施する!!

ネキリムシ類被害

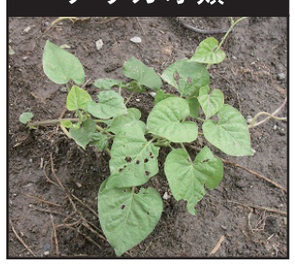
※ガードベイトA 3kg/10a
または クルーザーMAXX

ハスモンヨトウ

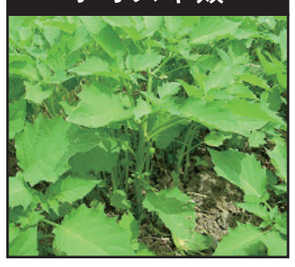
マメハンミョウ

カロライナツユクサ

アサガオ類



ホオズキ類



ホソアオゲイトウ

栽培速報等を発信していますので
LINE登録を宜しくお願い致します。

水稲・麦・大豆速報LINE

農薬適正使用と飛散防止対策を徹底しましょう!

南筑後農業協同組合　農畜産課　TEL(63)8814
南筑後普及指導センター　TEL(62)4191
瀬高グリーンセンター　TEL(62)4111
山川グリーンセンター　TEL(67)1214
高田グリーンセンター　TEL(22)3218
大牟田グリーンセンター　TEL(56)8915

令和８年産 みなみ筑後の麦づくりこよみ

作成日：令和7年7月30日
南筑後農業協同組合
南筑後普及指導センター

全量種子更新100%の実施！

赤かび病防除の実施による高品質麦づくり！

喜ばれる
みなみ筑後の
麦作りを行い
ましょう！

④タンパク質含有率等の向上
③赤かび病防除の実施
②土づくりの実施
①全量種子更新の実施

項目＼月旬	11 中	11 下	12 上	12 中	12 下	1 上	1 中	1 下	2 上	2 中	2 下	3 上	3 中	3 下	4 上	4 中	4 下	5 上	5 中	5 下	6 上
生育期間		播種適期	栄養生長期間									幼穂伸長期間			登熟期間						
主な作業【資材名】(実施日)	優良種子の準備【土壌改良材】	【種子消毒】	【基肥施用】	【播種】		除草剤散布		3枚以上の頃 麦踏み①	追肥(小麦)	土入れ(排水)①	麦踏み②	土入れ(排水)②	追肥(大麦)	麦踏み③	除草剤散布	麦踏み④	土入れ(排水)③	穂揃期追肥	赤かび病防除	収穫	

※○印の数字は、作業回数を表わす。

品種特性表

区分	品種名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	耐倒伏性	栽培上の注意点
小麦	シロガネコムギ	4.4	5.24	80	8.1	556	極強	穂数の確保を図り、穂発芽に注意する。
小麦	みなみのやわら	4.8	6.1	84	7.7	507	強	パン・中華麺用小麦。赤かび病・穂発芽に注意する。
大麦	はるしずく	4.4	5.17	87	6.9	583	強	早播きや播種量増は避け、適期播種適正播種量を守る。ヤギシロトビムシの害は小麦より出にくい。

※「みなみのやわら」は、「ミナミノカオリ」の特性を準用。

カラスノエンドウ

カズノコグサ

スズメノテッポウ

赤かび病

小麦の収穫期の水分と適切な収穫法

子実水分	適切な収穫法
% 25～30	コンバイン収穫はできるが品質をわずかに損う
20～24	コンバイン収穫に適する
17以下	脱粒などのロスが多く、品質が著しく悪くなる

	仕上水分
小麦	11.5%以下
大麦	12.5%以下

1.播種適期・播種量

小麦	播種適期	11月15日～11月30日
小麦	播種量	6～7kg／10a
大麦	播種適期	11月25日～12月10日
大麦	播種量	5kg／10a

※適期播種に努める。
※大麦は早播きすると品質が低下し、遅播きすると収量が低下します。
※5cm以上の深播きは行わない。
※播種が遅れた場合は、3割程度播種量を増やす。
※土壌が乾燥している場合は播種後鎮圧を行う。

2. 種子消毒

種子更新をしましょう!!

対象病害虫	薬剤名	処理方法および処理時期
斑葉病 裸黒穂病 なまぐさ黒穂病	ベンレートTコート	乾燥種子重量の0.5% 【種子10kgに50g】を種子粉衣する。
ヤギシロトビムシ(小麦のみ)	クルーザーFS30	乾燥種子1kg当り原液6㎖ 【種子10kgに60㎖】を塗抹処理する。
大麦 網斑病・斑葉病 小麦 なまぐさ黒穂病	キヒゲンR-2 フロアブル	乾燥種子1kg当り原液20㎖ 【種子10kgに200㎖】を塗抹処理する。

※クルーザーFS30を使用する場合は、種子10kgに対し水60㎖を馴染ませた後、クルーザーFS30を60㎖塗抹処理し、殺菌剤(ベンレートTコート)を種子粉衣する。

3. 土づくり基準

排水対策	地下排水	有材暗渠+弾丸暗渠
	表面排水	ほ場周囲+うね間(枕地に溝を切り排水溝に通す。)
有機物の施用	稲わら	全量12～15cmの深さですき込む
	堆肥	牛ふん(発酵処理物1～2t)
	資材名	10a当り施用量
土壌改良資材	土力の素	45kg
	ミネラルG	160kg
酸性矯正資材	炭酸苦土石灰	200kg
	消石灰	160kg

※特に大麦は、酸性土壌に弱いので酸性矯正資材を投入する。
※堆肥散布後は、直ちにすき込みを行う。
※稲わらは、焼却せず有機物の施用としてすき込む。

4. 施肥基準 (適期播)

※タンパク質含有率を上げるため一発追肥又は2回追肥を行いましょう！

品種名＼施肥項目・時期及び肥料		基肥	追肥		一発追肥(被覆性肥料による)	穂揃期追肥
		ちくごのめぐみ 444 (14-14-14)	小麦 1月中旬～1月下旬	小麦 2月下旬～3月上旬	小麦 1月中旬～1月下旬	4月下旬(穂揃期) 硫安 (21-0-0)
			大麦 2月上旬～下旬			
小麦	シロガネコムギ	40kg	NK化成2号 (16-0-16) 30kg	NK化成2号 (16-0-16) 10kg	麦追肥一発2号 (24-0-5) 40kg	—
小麦	みなみのやわら	40kg	NK化成2号 (16-0-16) 30kg	NK化成2号 (16-0-16) 10kg	硬質小麦専用追肥 (30-0-4) 40kg	10～15kg
大麦	はるしずく	20kg	NK化成2号 (16-0-16) 20kg		—	—

※大豆後作は基肥を大麦小麦ともに50%程度減量し、追肥についても生育状況により加減する。
※稲わらを全量すきこむ場合は基肥を10kg増量する。
※追肥の後は効果を安定させるため土入れを必ず実施する。
※みなみのやわらは、タンパク質含有率を上げるために、穂揃期の追肥(実肥)を実施する。

5. 病害虫防除

対象病害虫	薬剤名	処理方法	使用回数	使用時期
赤かび病	ワークアップ粉剤DL	3kg/10a	3回以内	収穫7日前まで
	ミラビスフロアブル	8～16倍 0.8ℓ/10a (無人航空機散布)	2回以内	小麦 収穫7日前まで 大麦 収穫14日前まで
		1500～2000倍 100ℓ/10a		

※みなみのやわらは、赤かび病に弱いので2回防除を行う。

6. 除草基準

土壌処理剤を必ず使用しましょう。

区分	薬剤名	処理時期	10a当り使用量(散布液量)	使用上の注意事項
雑草多発田	ザクサ液剤	耕起又は播種前	300～500㎖ (100～150ℓ)	農地及び畦畔には必ず農耕地用除草剤を使用する。乳剤、粒剤ともに排水不良田や降雨(特に大雨)の前後には使用しない。
雑草多発田	ラウンドアップマックスロード	耕起前又は播種後出芽前	200～500㎖ (25～100ℓ)	
土壌処理剤	クリアターン乳剤	播種直後(雑草発生前)	500～700㎖ (70～100ℓ)	
土壌処理剤	クリアターン細粒剤F		4～5kg	
土壌処理剤	リベレーターG(粒剤)	播種後～麦2葉期(雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	4～5kg	
土壌処理剤	リベレーターフロアブル	播種後～麦3葉期(雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	60～80㎖ (100ℓ)	
茎葉処理剤	ハーモニー細粒剤F	播種後～麦3葉期(雑草発生前～発生始期)	4～5kg	一年生広葉雑草の残存雑草の多い場所に散布する。除草剤抵抗性スズメノテッポウには効果がないので注意する。
茎葉処理剤	ハーモニーDF	播種後～節間伸長前	5～10g (100ℓ)	
茎葉処理剤	エコパートフロアブル	麦節間伸長開始期まで(広葉雑草2～4葉期まで)	50～100㎖ (100ℓ)	ヤエムグラの多い場合。

※ ザクサ液剤、ラウンドアップマックスロード、ハーモニーDFの散布については周辺作物に薬害を与えるため、散布時の飛散(専用ノズルの使用)に十分注意する。
※ ハーモニーDF散布に用いた器具類は消石灰500倍液を10分間循環させた後、水洗いをする。
※ ハーモニー細粒剤F・ハーモニーDFはどちらか一剤だけ、1回のみの散布。
※ 土壌処理剤は土塊が大きいと薬害がでやすいので十分砕土を行い、2～3cmの深さに播種する。
※ カラスノエンドウは、除草剤散布を行い、花が咲く頃までに必ず抜き取る。
※ 広葉雑草には、ハーモニーDF 5gとサーファクタント30 100㎖を水100ℓに加用する。

7. 適期管理作業

適期管理作業が速やかに行えるように、排水対策を行っておくことが基本。

(1) **土入れ** 雑草や無効分げつの抑制・倒状防止・表面排水等の効果がある。1月上旬～中旬(本葉3～4枚頃)・2月上旬～中旬・3月上旬の土壌の乾燥した日に行う。第1回目は浅く、2回目、3回目と麦の生育にともなって土の量を増やしていく。
(2) **麦踏み** 分げつ促進と徒長の防止に効果がある。1月上旬～2月中下旬(節間伸長開始まで)に土壌の乾燥した午後に3～5回行う。
(3) **土入れ・麦踏み作業での注意事項**
① 土入れは麦踏み前に行い、麦踏み直後には行わない。
② 麦踏みは茎葉に霜・露があるとき行うと損傷が大きい。
また、土が湿っている時に行うと土をしめつけることになり、その後の生育を抑制するので注意する。

8. 倒伏防止対策

《基本対策》
(1) 適期に適量の播種を行う。
(2) 踏圧・土入れ、排水対策などの管理作業を徹底する。

栽培速報等を発信していますので
LINE登録を宜しくお願い致します。

水稲・麦・大豆速報LINE

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！

南筑後農業協同組合農畜産課 TEL(63)－8814
南筑後普及指導センター TEL(62)－4191
瀬高グリーンセンター TEL(62)－4111
大牟田グリーンセンター TEL(56)－8915
山川グリーンセンター TEL(67)－1214
高田グリーンセンター TEL(22)－3218

令和８年産

みなみ筑後の米づくりこよみ（JA 米生産基準）

作成日：令和７年１２月
南筑後農業協同組合
南筑後普及指導センター

お米づくりはまず「土力の素・ミネラルG」の投入から

喜ばれる「みなみ筑後」の米づくり重点事項

1. 売れる米づくり
（1）品質の良い米づくり
・種子更新の徹底
・刈取り１週間前の落水
・移植時期の遵守
夢つくし（6月15日頃）
元気つくし（6月18日頃）
ヒノヒカリ以降の品種（6月25日以降）
・ふるい目1.85mm以上
（2）うまか米づくり
・多肥栽培絶対厳禁
・過乾燥防止、玄米目標水分14.5%
・タンパク含有率、目標6.8%以下
（3）省力・低コストで安全な米づくり
・適期防除で散布回数の軽減
・作業受委託、機械の共同化
2. 農作業事故ゼロ

ＪＡ米生産基準

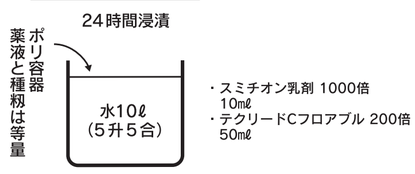
種子更新・農産物検査の受検・栽培管理表の記帳の３つの要件を満たしたお米を、JA米として扱います。

① 肥料・農薬・生産資材は原則として、こよみ・資材の注文書に記載されているものを使用すること。
② 適期適量施肥及び農薬の適正使用と飛散防止対策を徹底すること。
③ 適期収穫に努め、米袋で出荷する場合は表示が正しいか確認すること。
④ 栽培履歴に記入漏れや間違いがないか確認すること。
⑤ JA米とそれ以外を区分してJAに出荷すること。

稚苗育苗基準

①育苗箱数　20箱／10a（目安）
②育苗日数　20日程度
③種子消毒　テクリードCフロアブル200倍＋スミチオン乳剤1000倍の混合液に24時間浸漬する。消毒後は水洗せず薬液を十分切る。
④浸漬及び催芽　浸漬は必ず停滞水中で4～5日間（ヒノヒカリは1～2日長く浸漬）行う。白い芽が揃う程度とする。1日1回水を替える。
⑤育苗土　床土　みのりエース2kg／箱
覆土　みのりエース1kg／箱
⑥床土潅水　箱の底まで十分水がしみる程度とする。
⑦播種量　乾燥籾で150g／箱。催芽籾では180g／箱。
⑧覆土　みのりエース1kg程度で種子籾が隠れるように覆土する。
⑨立枯病防除　タチガレン液剤500倍500ml／箱（または1000倍1000ml／箱）潅注。
⑩出芽および緑化　平床出芽
覆土後直ちに均平で排水良好な場所に並べ被覆する。寒冷紗を用いる場合は、最初5～6日間は二重で、その後一重で2～3日間被覆する。
⑪潅水　被覆期間の潅水は１日１回程度とする。
緑化～硬化期間は生育量に応じて潅水する。
潅水は原則として日中とし、夕方は潅水しない。
被覆期間は上部潅水とする、その後の硬化期間以降は下部給水も可能である。
⑫追肥　育苗後半に肥料切れがみられる場合は移植５日前までに育苗肥料4･4･4で追肥する。

種子消毒の仕方



消毒剤吹付種子の種まきまでの作業工程

①水を溜めた桶に種子を入れ24時間浸漬し、薬剤効果安定のため、半日間陰干しを行う。
※完全に種子が浸漬するように水量を調整する。（種子10kgに水20ℓが目安）
②種まきの4～5日前より停滞水中で4～5日間浸漬を行い、ハト胸状態（芽が1㎜ぐらい出た状態）まで催芽させる。
※必ず1日に１回水を入れ替える。
③種をまく半日前に引き上げ、ネット袋のままか、ゴザ等に広げ、種子を乾かす。
※乾かしすぎに注意!!
④種まき

品種特性表

熟期	品種名	移植時期 月・日	出穂期 月・日	成熟期 月・日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/㎡	収量 10a	耐倒伏性	穂発芽性	外観品質	食味	耐病性 いもち	耐病性 白葉枯
極早生	夢つくし	6.15頃	8.8	9.12	76	17.3	372	520	中	難	上の下	上の上	弱	やや弱
早生	元気つくし	6.18頃	8.19	9.26	84	20.1	377	568	やや弱	難	上の上	上の上	弱	中
中生	ヒノヒカリ	6.25頃	8.26	10.6	84	19.0	379	554	やや弱	難	上の下	上の中	やや弱	やや弱

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）防除剤

剤系	剤名	散布時期	10a使用量	備考
粒剤（ペイト剤）	スクミノン	移植時～収穫60日前まで	1～4kg	・湛水状態（水深3～5cm）で散布し、散布後７日間は湛水状態を保ち、落水やかけ流しをしない。

一般施肥基準

◇土壌改良資材

土壌改良資材	10a当りの使用量	主要成分【保証成分】
土力の素	45kg	苦土7%・ケイ酸20%・りん酸5%・アルカリ分15%・カリ6%
ミネラルG	200kg	苦土3～4%・ケイ酸18～20%・鉄分13～18%・アルカリ分40～43%

稲わら、麦わらは良質な有機質！全量すき込みを実施し、間断かん水でガス抜きを徹底！

（10a当り施用量、kg）

施肥項目及び肥料名 ／ 品種名	基肥 緩効性肥料による1回全量施肥の場合 水稲一発 Jコート（20-10-10）	基肥 緩効性肥料による1回全量施肥の場合 中稲一発 Jコート（20-10-10）	基肥 ちくごのめぐみ 444（14-14-14）	基肥 ペースト肥料 ネオペースト1号（12-12-12）	基肥 ペースト肥料 ネオペースト SR502（15-10-12）	穂肥 NK化成2号（16-0-16）		穂肥 NK-C20号（20-0-10）【流し肥対応】
夢つくし	30	ー	30	35	30	7月28日頃 15		7月28日頃 15
元気つくし	35	ー	30	35	30	①8/3 15	②8/10 10	8月5日頃 20
ヒノヒカリ	ー	35	30	35	30	①8/10 15	②8/17 10	8月12日頃 20

※穂肥施用時の幼穂長は3～5mm。
※穂肥の2回目は、1回目の1週間後に施用する。

施肥の注意事項

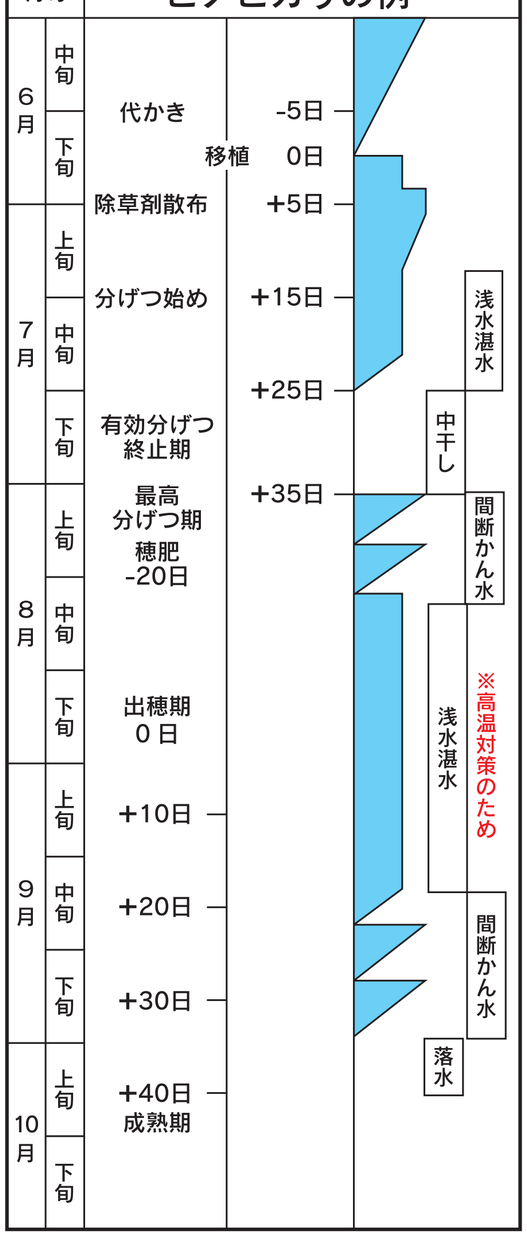
1. 堆肥や土壌改良資材の施用、深耕などの土づくりを行う。
2. 緩効性肥料を基肥に用いる場合は穂肥の施用は不要。
ただし、不足する場合は穂肥で調整する。
3. 高温対策のため、移植１週間前に散布する。
4. 収量、品質向上のために、ヒノヒカリ・元気つくしは２回穂肥を実施する。
5. 流し肥の実施は30a以下のほ場が望ましい。
6. 大豆後のほ場では、肥料の施用量を１～２割減らす。
7. 穂肥の施用は葉色の濃淡により施用量を決定する。

雑草防除基準

	剤型	除草剤名	使用時期	10a当り使用量	使用上の注意事項
初期除草剤	ジャンボ剤	ガツントZ ジャンボ	移植後3日～ノビエ3.5葉期（収穫60日前まで）	200g（10個）	① 10a当り10個の割合で水田に均等に投げ込む。② 藻類やウキクサが多発している水田では、拡散が不十分になり効果の劣る可能性があるので使用は避ける。③ れんこん近隣田での使用を避ける。④ 漏水田、砂壌土、軟弱苗、浅植田での使用を避ける。
		エンペラー ジャンボ	移植直後～ノビエ3葉期（移植後30日まで）	250g（10個）	
	フロアブル剤	ガツントZ フロアブル	移植後3日～ノビエ3.5葉期（移植後30日まで）	500mℓ（1本）	① 漏水田、砂壌土、軟弱苗、浅植田での使用を避ける。② れんこん近隣田での使用を避ける。
		エンペラー フロアブル	移植時～ノビエ3葉期（移植後30日まで）	500mℓ（1本）	① 漏水田、砂壌土、軟弱苗、浅植田での使用を避ける。② れんこん近隣田での使用を避ける。③ 移植同時散布機対応
	粒剤	ガツントZ 1キロ粒剤	移植時～ノビエ3.5葉期（収穫60日前まで）	1kg（1袋）	① 漏水田、砂壌土、軟弱苗、浅植田での使用を避ける。② れんこん近隣田での使用を避ける。③ 移植同時散布機対応
		エンペラー 1キロ粒剤	移植時～ノビエ3葉期（収獲60日前まで）	1kg（1袋）	
	FG剤	ガツントZ 200FG	移植後3日～ノビエ3.5葉期（収獲60日前まで）	200g	① 湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布。② 藻類やウキクサが多発している水田では、拡散が不十分になり効果の劣る可能性があるので使用は避ける。③ 漏水田、砂壌土、軟弱苗、浅植田での使用は避ける。④ れんこん近隣田での使用は避ける。
中期除草剤	液剤	ロイヤント 乳剤	移植後20日～ノビエ5葉期（収穫45日前まで）	200mℓ（25～100ℓに希釈）	① 散布後晴天の続く日を選んで、雑草に露などの水分が無い状態で雑草茎葉散布を行う。② 落水及び落水に近い状態にして雑草の株元までかかる様に散布を行い、3日以内に入水する。
		クリンチャーEW	移植後20日～ノビエ6葉期（収穫30日前まで）【ノビエ・アゼガヤ】	100mℓ（25～100ℓに希釈）	① 落水散布する場合はかけむらの無いよう雑草に均一に散布する。② 湛水散布する場合は、散布後7日間は湛水状態を維持する。③ 使用時はサーファクタント30（10mℓ/10ℓ）を加用する。
	無人航空機		移植後20日～ノビエ4.5葉期（収穫30日前まで）	100mℓ（0.8～1.6ℓに希釈）	
	粒剤	バサグラン 粒剤	移植後15日～（収穫45日前まで）【広葉雑草】	3kg（1袋）	① 落水後、土壌が湿った状態にして、雑草の根元近くに落ちるように均一に散布する。② 水口を閉めるとともに落水後は水尻も閉め、3～4日は水の出入りを止める。③ 夢つくしについては登録上、収穫45日前までとなりますので注意してください。

※ 除草剤散布後は水の管理に留意し、7日間の湛水状態を保つ。
※ モゲトン粒剤は、藻類発生ほ場では2～3kg/10a、表層はく離発生ほ場では1～2kg/10a散布する。（水稲3葉期以下の時期では薬害の恐れがある。）
※ 水田畦畔除草剤　ザクサ液剤500～1000mℓ/10aとダイロンゾル200～250mℓ/10a（100～150ℓ）を混用散布する。（水田畦畔雑草丈30cm以下）
※ れんこん近隣田での除草剤使用の場合は、指導員に直接お聞きください。

水管理



以下の時期を除き原則として生育期間を通して間断かん水を行う。
●田植え後10日～2週間（除草剤処理後7日間を除く）は、活着促進とジャンボタニシ予防のため3cm程度の浅水湛水をする。
●田植え後30日前後から中干しを開始する。
●幼穂形成期～開花期は水が最も必要な時期なので浅水湛水する。
●台風接近時は深水にして風によるしおれを防ぐ。
●充実を良くするために、収穫前の落水は遅くする。

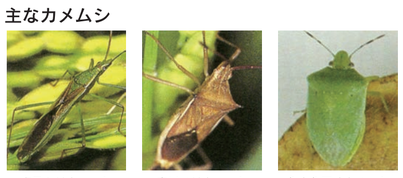
夢つくし・元気つくし剤型別防除体系　ヒノヒカリ剤型別防除体系　無人航空機利用の防除体系

月旬	粉剤体系	液剤体系	豆つぶ剤体系	粉剤体系	液剤体系	豆つぶ剤体系	液剤体系
6月 上旬～下旬	は種時(覆土前)～移植当日 防人箱粒剤（1箱当り 50g） いもち病 ウンカ類・コブノメイガ	は種時(覆土前)～移植当日 防人箱粒剤（1箱当り 50g） いもち病 ウンカ類・コブノメイガ	は種時(覆土前)～移植当日 防人箱粒剤（1箱当り 50g） いもち病 ウンカ類・コブノメイガ	は種時(覆土前)～移植当日 防人箱粒剤（1箱当り 50g） いもち病 ウンカ類・コブノメイガ	は種時(覆土前)～移植当日 防人箱粒剤（1箱当り 50g） いもち病 ウンカ類・コブノメイガ	は種時(覆土前)～移植当日 防人箱粒剤（1箱当り 50g） いもち病 ウンカ類・コブノメイガ	は種時(覆土前)～移植当日 防人箱粒剤（1箱当り 50g） いもち病 ウンカ類・コブノメイガ
7月 上旬～下旬	※箱施薬剤は、移植前日～2日前処理が効果的です。						
	※葉いもち多発の場合は、コラトップジャンボPを施用する。（初発20日前～初発時） 小包装（パック）10～13個 ※前年度紋枯病が多発したほ場では、モンガリット粒剤を施用する。（収穫30日前まで） 3～4kg						
8月 上旬	※コブノメイガの発生が見られた場合 ロムダンゾル 1000倍・100ℓ（収穫21日前まで）						※コブノメイガの発生が見られた場合 ロムダンエアー 16倍・0.8ℓ（収穫21日前まで）
8月 中旬	穂ばらみ期・8月5～10日 ダブルカットバリダトレボン粉剤3DL（3～4kg） いもち病・紋枯病 ウンカ類・カメムシ類 コブノメイガ【穂揃期まで】	穂ばらみ期・8月5～10日 ダブルカットバリダフロアブル（1000倍・100ℓ） いもち病・紋枯病 スタークル顆粒水溶剤（3000倍・100ℓ） ウンカ類【2種混合散布】【穂揃期まで】	穂ばらみ期・8月5～10日 ワイドパンチ豆つぶ（250g） いもち病・紋枯病 ウンカ類・カメムシ類【収穫35日前まで】	穂ばらみ期・8月10～20日 ダブルカットバリダトレボン粉剤3DL（3～4kg） いもち病・紋枯病 ウンカ類・カメムシ類 コブノメイガ【穂揃期まで】	穂ばらみ期・8月10～20日 ダブルカットバリダフロアブル（1000倍・100ℓ） いもち病・紋枯病 スタークル顆粒水溶剤（3000倍・100ℓ） ウンカ類【2種混合散布】【穂揃期まで】	穂ばらみ期・8月10～20日 ワイドパンチ豆つぶ（250g） いもち病・紋枯病 ウンカ類・カメムシ類【収穫35日前まで】	夢つくし・元気つくし 8月5～10日 ヒノヒカリ 8月10～20日 ダブルカットバリダフロアブル（8倍・0.8ℓ） いもち病・紋枯病 スタークル液剤10（8倍・0.8ℓ） ウンカ類・カメムシ類【2種混合散布】【穂揃期まで】
8月 下旬～9月 上旬	開花後～収穫7日前まで〔選択〕 スタークル粉剤DL（3kg） ウンカ類・カメムシ類 トレボン粉剤DL（3～4kg） ウンカ類・カメムシ類 コブノメイガ	開花後～収穫7日前まで スタークル顆粒水溶剤（2000倍・100ℓ） カメムシ類（3000倍・100ℓ） ウンカ類	開花後～収穫7日前まで スタークル豆つぶ（250g） ウンカ類・カメムシ類	開花後～収穫7日前まで〔選択〕 スタークル粉剤DL（3kg） ウンカ類・カメムシ類 トレボン粉剤DL（3～4kg） ウンカ類・カメムシ類 コブノメイガ	開花後～収穫7日前まで スタークル顆粒水溶剤（2000倍・100ℓ） カメムシ類（3000倍・100ℓ） ウンカ類	開花後～収穫7日前まで スタークル豆つぶ（250g） ウンカ類・カメムシ類	開花後～収穫7日前まで スタークル液剤10（8倍・0.8ℓ） ウンカ類・カメムシ類

斑点米をなくしましょう！カメムシの徹底防除により

等級	最高限度 %	最高限度 カルトン中の粒数
1	0.1	1粒
2	0.3	3粒
3	0.7	7粒

主なカメムシ



留意点　農薬散布の

スタークル剤の使用については、出穂時期～開花期での散布はミツバチに悪影響をおよぼしますので、使用しないでください。
※適期に適薬量を均一に散布する。
※農薬散布の場合はマスクや防除衣を着用し、安全使用に注意する。
※近隣に野菜等のほ場がある場合は、風向き等に注意し、薬剤の飛散が無いよう防除する。

農薬の適正使用と飛散防止対策を徹底しましょう！

南筑後農業協同組合　営農部農畜産課(63)8814
南筑後普及指導センター(62)4191
瀬高グリーンセンター(62)4111
大牟田グリーンセンター(56)8915
山川グリーンセンター(67)1214
高田グリーンセンター(22)3218

栽培速報等を発信していますので
LINE登録を宜しくお願い致します。
水稲・麦・大豆速報LINE